

地方研究会活動報告



関西品質工学研究会 25周年記念講演会

鐵見 太郎*

Taro Tetsumi

関西品質工学研究会は1994年1月の発足以来、多くの方々に支えられながら活発な活動を続け、今年2018年に25周年の節目の年を迎えた。節目の年にあたり、題記講演会を開催し、お世話になった方々への感謝の意を表するとともに、次のステップに向けた抱負を披露したのでここに報告する。

1. 実施概要

【講演会】

日時：2018年7月6日（金）13:00～17:00

場所：トラストシティ カンファレンス・新大阪
開催の主旨：当研究会活動を支えて頂いた多くの方々と共に歩んできた25年を振り返りつつ、更なる発展に向けた夢・抱負・方策を披露し、未来に向けた思いを共有する。

参加者：64名（会員35名、招待者13名、一般参加16名）

講演会プログラム：

（当日、大雨のために交通機関が大幅に乱れたため、以下の順番に変更して実施）

- (1) 開会挨拶（関西品質工学研究会）
- (2) 来賓挨拶（日本規格協会関西支部 支部長 神原義雄）
- (3) 当研究会歴代会長リレー講演
－「創成期の振り返りと今後の期待」（初代会長 原和彦）

1994年に14名の同志で研究会を設立、当初から田口玄一を年4回招聘、事例研究を通じて田口哲学の真髄を学んだ。社会貢献の一つとして技術

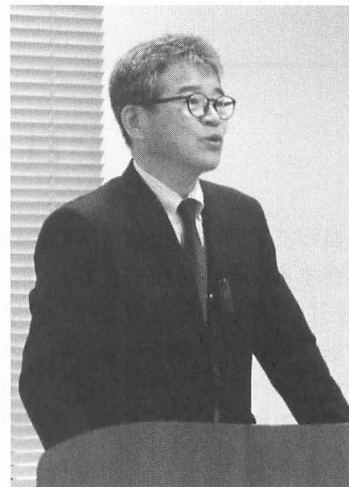
評価の大切さを発信し、JAXAの品質工学活用にも影響を与えた。

- －「関西品質工学研究会メンバーによる珠玉の研究事例」（第2代会長 芝野広志）

研究会の体制は初代会長が構築したので、自身が会長の時代は事例研究を中心とした活動に専念した。その研究の中には、品質工学の手法としての面白さだけでなく、当時の最先端技術に適用し、生産性向上でも大きな成果をあげたものがある。品質工学の輪を広げていくには、このような事例を使ってアピールしていくことが大切である。

- －「知らないと損する品質工学～関西QEでの研究成果～」(第3代会長 太田勝之)

直交表やSN比といったツールも、より詳しい知識があると更に大きな成果につながる。例えば L_{18} ではなく L_{27} を使った方が試作品の数を減ら



日本規格協会関西支部長 神原義雄

* 関西品質工学研究会、会長